

第1回ミツバチの不足問題に関する有識者会議 概要

生産局

1. 概要

第1回会議における、有識者から意見の概要については以下のとおり。

○ミツバチ不足問題の実態に関して

- ・ 養蜂家、養蜂団体からは、蜜源の減少、蜂病やダニ被害のほか、農薬被害等による飼養環境問題、交尾率低下が指摘され、国に対して原因究明の要望があった。
- ・ 花粉交配用ミツバチ供給業者からは、農薬やダニ被害のほか、養蜂場の立退きなど飼養環境悪化のほか、国産はちみつの値上がりによる蜂群の採蜜用へのシフトも原因の一つに挙げられ、ミツバチ増殖のモチベーションを高める努力の必要性について意見があった。
- ・ 県からは、農薬やダニによる被害報告のほか、農薬散布時期と蜂場マップの交換等、耕種農家と養蜂家の連携について報告があった。

○花粉交配用ミツバチの需給調整システムの検証に関して

- ・ 県からは、需給調整システムが機能したとの報告のほか、需要期に入る前の事前の調整が重要との意見があった。また、不足地域に関する情報の共有について提案があった。
- ・ 園芸農家からは、国が関わりを持ち、需給システムを行うことの必要性のほか、園芸産地も早めに供給計画を立てる必要があるとの意見があった。
- ・ 養蜂団体からは、行政や園芸産地に対し、いつ、どれだけの数量が必要か、早い時期に把握してほしいとの意見があった。

○今後の調査研究において検討すべき事項等に関して

- ・ 学識経験者からは、調査研究を始める以前の実態把握の必要性について、意見があった。
- ・ また、人工増殖技術の普及に関する提案のほか、欧米での現象に関する事例調査の必要性について提案があった。

○秋に向けてとるべき対応に関して

- ・ 県等からは、園芸産地と養蜂家が協力関係を結び、まず県内自給に努め、その上で県間での需給調整を図ることが重要との意見があった。また、農薬安全使用対策協議会等による農薬事故防止への取組の必要性について意見があった。
- ・ 養蜂家等からは、行政が仲立ちし、地産地消で調整する需給をマッチングすることについて提案があったほか、園芸農家からも、各県内で需給体制を整える必要性について意見があった。
- ・ 養蜂家等からは、蜂の飼養方法（例：越冬用飼料の確保）を園芸農家が学べば蜂が長く働けるとの意見があった。
- ・ 学識経験者からは、疾病対策同様、みつばちの増殖等に関する行政の支援の必要性について意見があった。
- ・ 花粉交配用みつばち供給業者からは、短期的な対策として、輸入再開について意見があったが、養蜂家等からは慎重な対応を求める意見があった。

○その他意見・提案等

- ・ ワーキンググループなどにより、幅広い情報交換を行う必要性について、提案があった。
- ・ レンゲを食害するタコゾウムシ対策の強化が必要との意見があった。
- ・ 21補正予算事業が園芸産地に対する支援となっていることについて、養蜂業に対して直接の支援が必要との意見があった。

2. 今後の対応

有識者から頂いたご意見を踏まえ、農林水産省としては、

- ① 関係者に対して、本年秋季以降の需要期に向けて、花粉交配用ミツバチの確保について注意喚起等を行うとともに、確保状況とミツバチの増殖状況について確認していく。
- ② ミツバチの確保状況と増殖状況を踏まえ、秋の需要期が始まる以前には、第2回有識者会議を開催し、状況に応じた必要な対応について検討する予定。